

[043] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10228>

出版情報：語文研究. 43, 1977-06-01. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

○第四十三号をお届けします。このところ執筆者に若手諸君の顔触れが多いようですが、編集部としては論文集めに苦勞することもなくスムーズに集まりますのは御同慶の至りです。

○新学期を迎えてはや二ヶ月、今年も研究室をはじめ出入りが激しく、歓送迎会も盛んだったようですが、院生もこの所出の方が多くてなか／＼入る方が追いつかず若干淋しい気もします。助手も中島さんが鹿兒島大へ転出され、新らしく稻川君(国語)を迎えました。研究室を訪れてくださる諸先輩方も、なか／＼助手の顔を覚える暇もないとの御苦情も耳にしますが、せっかく御出かけ下さって見おぼえて戴き度く存じます。

○田村先生の御蔵書もおい／＼購入がすすみ、貴重書類の大半は手続きもすましたようで、一応の御報告が出来るようになりましたが、貴重書は勿論、一人の研究者の確かな目で集められた諸々の雑書類こそ、纏めて保存されて初めて意味があるわけで、そのような雑本の多い図書館こそ、名実共に大図書館といえるのだらうと思います。研究室にも出来るだけそのような集書を心がけたいと思います。

(中野記)